



新刊案内



『魔導師は平凡を望む』【21】	広瀬 煉/著	フロンティアワークス	T/ヒレ
『司書のお仕事』	大橋 崇行/著	弁誠出版	T013/オタ
『13歳からの絵本ガイド』	金原 瑞人/監修	西村書店	T019/シュ
『知の古典は誘惑する』	小島 毅/編著	岩波書店	T104/コツ
『男女平等はどこまで進んだか』	山下 泰子/監修	岩波書店	T367/タン
『数学を嫌いにならないで』【基本のおさらい篇】	ダニカ マッケラー/著	岩波書店	T410/マタ
『君たちは夢をどうかなえるか』	松本 零士/著	PHP研究所	T726/マレ
『The MANZAI』【上】【下】	あさの あつこ/著	KADOKAWA	TB/アア
『緋弾のARIA』【28】	赤松 中学/著	KADOKAWA	TB/アチ
『写字室の鷺鳥』	篠原 美季/著	講談社	TB/シミ
『後宮瑞華伝』	はるおか りの/著	集英社	TB/ハリ
『クラスメイツ』【前期】【後期】	森 絵都/著	KADOKAWA	TB/モエ



ティーンズのココロ通信 山口市立中央図書館 176号

平成30年 8月 1日 発行 〒753-0075 山口市中国町7-7

TEL: 083-901-1040 FAX: 083-901-1144

Eメール: info@lib-yama.jp



平和

1学期が終わり、長い長い夏休みが始まりました。気温が高い日が続き、熱中症になりそうですね。さて、今年は広島・長崎に原爆が投下されてから73年が経ちました。そこで今月は【平和】というテーマでいろいろな本を集めてみました。戦争をはじめ、いじめや世界平和などなど、【平和】の視点もさまざまです!!!
たくさん時間がある夏休みに、少し【平和】について考えてみませんか。



●『きつときみに届くと信じて』

吉富 多美／著 須田 彩加／挿画・挿画 金の星社 T／ヨタ
いじめ。これは今に始まったことではないし、問題は根深く、決して他人事ではない。いじめる側が完全な悪という訳ではない。みんなそれぞれ抱える悩みがある。それに気付くかどうか。寄り添って。耳を傾けて。話を聞いてあげることができるかもしれない。

一人で抱え込まないで。モヤモヤをちょっとでも感じたら、それをはき出して。親、兄弟、先生、友達、SNS、誰でもいいから言ってみて。ひとつひとつ悩みがなくなっていくことで、いつか世界が平和になるかも。

(S. M)

●『母のまなざし、父のまなざし いわさきちひろと香月泰男』

いわさき ちひろ／画 香月 泰男／画 講談社 726／イチ
淡い色合いで愛らしい子供の姿を多く描いたことで有名ないわさきちひろと、山口県出身でシベリア拘留の経験をもとに黒と黄土色を基調とした作風で「シベリア・シリーズ」などを描いた香月泰男。絵のタッチが全く異なるこの2人に共通するのは、戦争の経験と、故郷や家族、子供たちへの想い。父として母として家族を愛し、そして画家として、平和をかけがえのないものだと描き続けた画家2人の、それぞれの願いが伝わってくる1冊です。

(M. S)

●『世界を平和にするためのささやかな提案』

池澤春菜 他／著 河出書房新社 T319／セカ
そもそも平和って何？平和と聞いて連想されるものも人それぞれだと思います。まずは身近なことから考えてみませんか。

「おもしろいことを考える」「地図を逆さまにしてみよう」

この本は、タレント、医者、学者、作家、声優など様々な職種の22人が、それぞれの考える平和への提案をしています。

賛成も反対も自由です。正解も不正解もありません。いろんな意見に触れて、少し視野が広がるかもしれません。

世界が「平和」になりますように。

(S. M)

●『おなかにすんでいるパンのトゲ』

すずき たかこ//作 藤井 しんいち/画 銀の鈴社 K/スタ
これは小学4年生のサトルが夏休みに聞いたミツおばあちゃんの小さいころの話。昭和20年ミツはまだ6歳でした。敗戦直後も衣食住が大変で、ミツはお腹の皮と背中がくっつくほどお腹がすいて仕方がなかったので、露天商のおじさんからパンを盗んでしまいました。それが腐ったパンとは知らずに……。常に空腹で餓えている兄妹の言動が細かく描かれています。平和の尊さ、今あるあたりまえの生活のありがたさを実感させられます。今ではすぐにでも手に入るパン1つでこんなにも喜んでいた人々が昔いたことを私たちは忘れてはいけません。

(Y. I)

●『さがしています』

アーサー ビナード/作 岡倉 禎志/写真 童心社 K319/オタ
8月6日8時15分で止まったままの時計、黒こげた弁当箱やめがねなど、この絵本は広島原爆で持ち主を失った14点の物たちがかたりべとなり、持ち主たちの日常、そして原爆投下後の様子を語ります。ひとつひとつの遺品があの日原爆のすさまじさを語り、続いていくはずだった持ち主の未来をさがしています。戦後70年以上たち、当時を経験した人が少なくなり語り継ぐことは難しさを増しています。戦争を知らない若者の関心を寄せるきっかけづくりにもこういった絵本はとても貴重であり、読み継いでいかなければならないと思いました。

(Y. I)

●『パンツマン VS 恐怖のオバちゃんエイリアン』

デイブ ピルキー/作・絵 木坂 涼/訳 徳間書店 K/ヒテ
なんと、主人公はパンツ一丁で地球の平和を守るヒーロー「パンツマン」。小学4年生のジョージとハロルドが描いたマンガの主人公が、2人のいたずらで現実になり「パンツ一丁まる見えパンツマン！」の決めゼリフでユニークな敵と戦います。平和を守るヒーローは数あれど、パンツ一丁の正義の味方が平和を守る…、こんな設定は物語の中ならではです。平和について難しく考えるのに疲れた時は、どのページをめくっても楽しいこんな話はいかがでしょうか？

(M. S)